

ブラジル：GDP（2016年4-6月期）

—マインド改善を背景に、消費は回復の兆し—

MRI Daily Economic Points

September 5, 2016

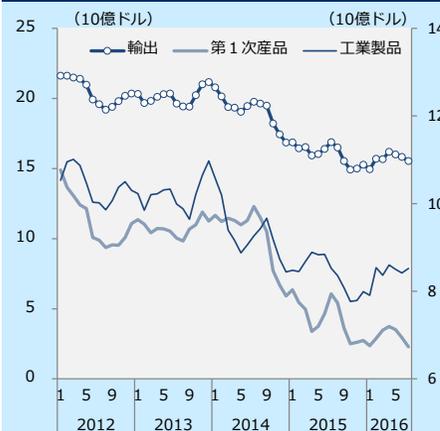
実質GDP



マインド



名目輸出入



為替と株価



評価ポイント

今回の結果

- 16年4-6月期のブラジルの実質GDPは、前年比▲3.8%と前期(16年1-3月期：同▲5.4%)から下落幅が縮小したものの、引き続きマイナス成長となった。季調済前期比では、▲0.6%と前期(1-3月期：同▲0.4%)からやや成長率が低下した。
- 消費は、依然として低調な動きを続けているが、消費者マインドの改善を受け回復の兆しがみられている。消費者マインドは、テメル新大統領の政策への期待などを背景に、5月以降急速に改善している。
- 総固定資本形成は、季調済前期比+0.4%と2013年7-9月期以来の増加となった。オリンピック開催直前に行われたインフラ投資や、資源価格の持ち直しによる資源関連投資の回復が寄与した可能性がある。
- 一方、輸出は、季調済前期比+0.4%と増加幅が縮小した。天候不順の影響により大豆の生産が減少し、第1次産品の輸出が減少している。
- 金融市場では、テメル大統領の積極的な外資導入や、年金改革など構造改革を進める姿勢が好感されており、株価は上昇、通貨は増価基調で推移している。

基調判断と今後の流れ

- ブラジル経済は、縮小が続いているが、消費者マインドが急速に改善するなど、消費は回復の兆しがみられている。
- 先行きは、投資を中心にオリンピックの反動減が見込まれるなど、依然として下押し圧力が残るが、①企業や消費者のマインドの改善や、②資源価格の持ち直しなどを背景に、経済の縮小ペースは弱まっていく見込み。
- 今後のリスクには、政情不安が再燃する可能性があげられる。テメル氏の大統領就任が正式に決定したものの、テメル大統領自身の汚職問題がくすぶっているなど、政情はなお不安定な状況が続いている。政情不安が再燃し、再び消費者や企業のマインドが下降することになれば、経済の低迷が更に長期化しかねない。